

山影進教授のご退任にあたって

国際政治経済学部長 内田 達也

山影進先生は 2012 年に本学部国際政治学科に教授として就任され、その後 8 年間研究・教育にご尽力いただきました。ご退職に際し、学部長として、本学でのお勤めに対して感謝の気持ちを込めて、御礼申し上げます。

山影先生は、本学にいらしていただく前は長く東京大学で教鞭をとられており、2012 年に本学に着任以来、学部では「国際政治学理論」や「国際制度論」、大学院では「国際政治学」「人間の安全保障」といった、国際政治学や国際関係論の根幹をなす科目をご担当いただきました。また、山影先生は、マルチエージェントシミュレーション (MAS) を国際政治学の研究手法にいち早く取り入れられ、それを院生や学部ゼミ生の研究指導にも役立てておいででした。本論集の最近の号でも、MAS を用いた研究の成果が発表されています。

私は政治学、国際政治学の門外漢ではありますが、MAS の手法にはとても関心を持っていました。恥ずかしながら、山影先生にお話を伺うまで、私はコンピュータを用いたシミュレーションが政治学や国際政治学の研究に用いられていることを知りませんでした。しかも、それを学部教育にも導入されて、ゼミでは「人工社会を作ろう」というテーマで、実際にソフトウェアを用いた研究ができるということを知り、学生を羨ましく思いました。ゼミのテーマを「コンピュータ・シミュレーションによる国際政治の分析」ではなく、あえて「人工社会を作ろう」としたところも、山影先生らしさが表れているのではないかと思います。MAS の応用先を国際政治に留めずに、われわれが生きる社会全体に広げたことは、3 学科からなる本学部の学生に魅力を増したはずです。それと同時に、このテーマは国際政治や国際社会の問題が、われわれの生きる「社

会」と地続きであることや、実際に社会を「作る」ことを通してそれらを学べることを伝えています。山影先生は、それを「一緒にやろう」と学生に呼びかけているのです。

このように、山影先生は常に後進に研究の門戸を広げ、心遣いをされていました。私が学部長に就任して間もない頃、先生が「期待していますよ」と、にこやかにお声をかけてくださったことを今でもよく覚えています。そのお言葉がどれだけ私を勇気づけたかわかりません。山影先生が今後ともますますご活躍なされることをご祈念し、御礼を申し上げますとともに、これからも青山学院大学国際政治経済学部を見守ってくださいますよう、お願いいたします。